



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA-RYOHOKU

広島陵北ロータリークラブ

- The Weekly Report -

～クラブのテーマ～

こころゆたかなロータリアン

～本年度会長方針～

感謝の心と 情熱を



第1034回例会 2012年8月1日 No.1005号

会長時間



会長 下田 敬三

皆さん、こんにちは。
お客様、ようこそお越し下さいました。どうぞごゆっくりお過ごし下さい。
本日の卓話時間は、広島女学院理事長、黒瀬真一郎先生をお迎えしています。先生におかれましては、大変ご多用の中おいでいただきました。ありがとうございます。よろしくお願ひ致します。

さて、67回目の原爆記念日が近づいてまいりました。静かに、多くの犠牲者の御霊に哀悼の意を捧げたいと思います。私は母親を原爆で亡くしています。今回は、私の戦争に係わるお話をさせていただきます。(父から聞いた話です。) 私は、6人兄弟の末っ子ですが、長男は大正13年生まれ、現在生きていれば89歳になります。と申しますのは、21歳で戦死しているのです。

長男は、17歳の時に志願して海軍に入隊致しました。広島陵北ロータリークラブ初代会長、故二宮先生と同じ年であり、先生と同じように海軍でも航空隊に入りました。激しい訓練を受け、昭和19年、この時日本軍は、軍事物資乏しくなり、非常に厳しい状況下でありました。軍からの命令を受け、戦地へ行くことになりました。戦地に飛び立つ前に、両親に報告に帰り、自分の生まれ育った田舎の風景をしっかり目に焼き付け、両親に「自分は日本のために戦って参ります。父上、母上、長生きしてください」と言い残して戦地に向かうのです。その時には、もう自分は故郷には帰って来られないと決意していたそうです。そして、21歳の時、南洋ケゼリン島という小さな島で戦死致しました。

このように、戦争によって、まだ若い多くの青年が日本のために尊い命を落とした事を、決して忘れてはいけません。

今回の例会(8月8日)

ゲスト卓話
ステュディオグリオット(有)
代表取締役 山本 恭瑚 様

次回の例会(8月22日)

来賓卓話
(株)メンテックワールド
代表取締役 小松 節子 様

出席報告 (例会運営委員会)

8月1日(水)出席者
会員総数 38名
出席会員 30名
欠席会員 8名
ご来賓 0名
ご来客 2名
ゲスト 2名

来客者紹介 (親睦家族委員会)

8月1日(水)出席者
広島RC 2名

信原会員へ記念品贈呈

下田会長より、20年連続出席の信原弘会員へ記念品を贈呈しました。



幹事報告(瀬川幹事)

■例会変更

- ・広島北RC 「休会」 8月16日(木)
- ・広島城南RC 「休会」 8月17日(金)

■BOX配布物

- ・ロータリーの友8月号
- ・ガバナー月信8月号

■お知らせ

- ・本日例会終了後、12階会議室「ライラック」で理事役員会が行われますので、理事役員の方はよろしくお願い致します。

【例会】 毎週水曜日(12:30～13:30) / リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78) / 082-502-1121

【会長】下田 敬三 【事務所】広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F 【TEL】082-221-4894
【幹事】瀬川 長良 【ホームページ】http://www.ryohoku-rc.jp/ 【FAX】082-221-4870

ゲスト卓話

「教育と平和」 — 生命を尊ぶ教育とヒロシマの使命 —



学校法人 広島女学院
理事長・院長
(広島中央RC)
黒瀬 真一郎 様

1. はじめに
「戦争は人間の仕業です。戦争は人間の生命を破壊します。戦争は死です。戦争を起こすのは人間です。そして、戦争をなくし、平和を打ち立てるのも人間です。過去を振り返ることは、将来に対する責任を負うことです。広島を考えることは、平和に対して責任をとることです。」(ヨハネ・パウロ二世1981年2月25日広島平和公園)
2. ヒロシマは昔話か
三つの顔を持つひろしま — 広島・ヒロシマ・広島
3. 広島女学院126年の歩み
— 変えてはならないことと、変えなくてはならないこと
広島女学院 — キリスト教に基づいた人間教育 — 女子教育・国際教育・平和教育
建学の精神: “神とともに働く者なり” — 「自分を愛するように、隣人を愛せよ」
「人間は、自分が生きているのではなく、大きな存在によって生かされている」謙遜さを(「21世紀に生きる君たちへ」司馬遼太郎)
●草創期(1886年～校母 ナニ・B・ゲーンズと75人の女性宣教師) ‘Everything for others, nothing for herself’ 他人に厚く、自分に薄く ●復興期(1945年8月6日～)原爆による犠牲者350名(生徒320名、教職員20名) ●第三期(創立120周年)今、あえてなぜあえて女子教育か
4. かけがえのない生命を尊ぶ教育 — 理念と実践
ひろしまにある学校・ヒロシマに生きる者としてのミッション(使命)
①ゲーンズ幼稚園
○園児・保護者への取り組み ○環境問題への礎(自然とのふれあい — ビオトープ)
②学高等学校
机上の学び(座学)と感動を覚え、その感動を共有できる「場の提供」
○平和教育カリキュラムの作成(1982年) 平和を祈る週(毎年6月)

- 英語を→英語で — 英語版「Summer Cloud」刊行(1976年) ○他校生徒への平和公園内碑めぐりの案内と交流(国内11校、国外5校) ○異質性の理解・認容・尊重 — 歴史、民族、宗教、文化の違いを超えてアジアからの留学生(1890年～)、サウジアラビア大使4度の来校(2000年) ○被爆50年「'95国際高校生サミット」テーマ「平和・環境・飢餓」16カ国250名 ○「核廃絶！中高生による署名キャンペーン」(2008年～26校4万余 — 国連へ提出)
- ③大学
○原爆講座(1962年～)被爆証言の朗読劇(2005年～)○のピースガイド ○米国姉妹提携大学とのジョイント・セミナー(1994年～)、原爆展(2001年～) ○関西学院とのジョイント・プログラム「ヒロシマ」(2004年～) ○フラワー・フェスティバル(F・F) — 折り鶴プロジェクト(2009年) ○日本初の女性学関連総合講座「女性と社会」(1980年～)「女性学」(1998年) ○平和・人権総合講座(1992年～) ○人権週間と特別講座(1999年)「ボランテイ論」
- ④同窓会 — 教育の成果は卒業生にあり
○「被爆証言集」(日・英語版)刊行(2006年) ○国内外での平和活動 — 森本順子(在オーストラリア絵本作家) サーロー節子(在カナダ平和活動家) 部谷京子(映画美術監督 日本アカデミー賞連続10回受賞)、杉浦圭子 ○「日本女性会議広島大会」— 平和を創り出す若者たち — 全体会パネリスト 野上由美子(NGO活動家)、荊尾遥(在ベルギー大使館)、森田由美(中国新聞)
- ⑤女学院
○「栗原貞子記念平和文庫」大学図書館開設(2008年10月)「生ましめんかな」(2009年)
- ⑥女学院教職員・同窓生による平和活動
○「原爆の子の像」建立と維持(河本一郎 — 「広島折り鶴の会」) ○朗読劇「夏雲は忘れない」「ひとり芝居」○「被爆者が描いた原爆の絵を街角へ」5号碑(2005年) ○「日野原重明・小澤征爾・吉永小百合 世界へ送る平和のメッセージ」(2005年) 「谷本清平和賞」の受賞(2006年)
5. 被爆64年を迎えた今 — 私たちにできることから
風化→継承・決意・実践 — 教育の果たすべき役割「命の奇跡原爆・戦争という‘闇’から目をそむけず、しっかりと真実を見つめよう」(平和の誓い)
6. おわりに

SMILE BOX

SMILE BOX

下田敬三 会員

本日の卓話は、広島女学院理事長黒瀬真一郎先生をお迎えています。先生におかれましては、大変ご多用の中おいでいただきましてありがとうございます。よろしく願いいたします。

安土義和 会員

黒瀬先生、本日はお忙しいところ卓話に来て下さり、誠にありがとうございます。

愛谷俊治 会員

広島県夏の大会も終わりました。我が母校広陵も負けました。孫も浜田高校で準決勝で残念ながら負けました。皆様の御支援ありがとうございました。

広島工業高等学校の甲子園での活躍を期待しています。

小川嘉彦 会員

7月29日の家内誕生日には美味しいワインをありがとうございました。

長松俊典 会員

11/25に小豆島で行われるハーフマラソンにエントリーしました。3回の練習で最高は6kmでしたが、今朝は9km走ることができました。大好きな流川活動も自重して練習に励みます。必ず完走しますので応援をよろしくお願いいたします。

当日計	14,000円	累計	86,000円
-----	---------	----	---------